様式1（視察用）

会派行政視察報告書

平成２８年度会派　公明名取　の行政視察研修を、平成２８年７月２６日(火)から７月２８日(木)までの　２泊　３日にて執り行いましたので、その概要を下記のとおり報告いたします。

平成２８年　８月　１０日

名取市議会議長　郷内　良治　様

会派名　公明名取
代表　　菅原　和子　㊞

記

１ 期　　日　　平成２８年　７月２６日（火）～　７月２８日（木）

２ 参加人員　　２　名　　〈氏名〉　菅原　和子
菊　地　　忍

３ 視 察 先　　(1) 秋田県男鹿市
(2) 秋田県能代市
(3) 青森県黒石市

４ 行 程 表　　別紙のとおり

５ 調査事項　　別紙のとおり

６ 所　　感　　別紙のとおり

名取市
議会事務局
28.8.10
第　　号
受付

「公明名取」会派視察行程表

平成28年7月26～28日

7／26	仙台駅 9:12 → 秋田新幹線 こまち3号 → 秋田駅 11:24 12:10 → JR男鹿線 → 男鹿駅 13:05 男鹿駅 15:38 → JR男鹿線 → 秋田駅 16:38	秋田県男鹿市　視察　13:30～15:30 〒010-0595　男鹿市船川港船川字泉台66－1 TEL　0185(23)2103 議会事務局　シミズ様 宿泊先 秋田ビューホテル 〒010-0001　秋田市中通2－6－1 TEL　018(832)1111
7／27	秋田駅 9:46 → JR奥羽本線 → 二ツ井駅 10:58 二ツ井駅 14:56 → JR奥羽本線 → 弘前駅 16:16	秋田県能代市　視察　13:00～14:30 〒018-3192　能代市二ツ井町字上台1－1 TEL　0185(73)5052 議会事務局　ヨネムラ様 宿泊先 ホテルルートイン弘前駅前 〒036-8003　弘前市駅前町5－1 TEL　0172(31)0010
7／28	弘前駅 9:00 → 弘南鉄道 弘南線 → 黒石駅 9:29 黒石駅 12:20 → 12:49 弘前駅 13:44 → JR奥羽本線 → 新青森駅 14:38 14:26 → 東北新幹線 はやぶさ24号 → 仙台駅 16:29	青森県黒石市　視察　10:00～12:00 〒036-0396　黒石市大字市ノ町11－1 TEL　0172(52)2129 議会事務局　クシビキ様

会派行政視察報告書

平成28年7月26～28日

公明名取

参加者　菅原　和子

菊地　忍

秋田県男鹿市

1　視察実施日　　平成28年7月26日　　午後1時30分～3時00分

2　視察場所　　男鹿市役所

3　視察内容

〈自治体概要〉

人口　　29，342人（平成28年6月末現在）

面積　　241．09Km^2

男鹿市は、男鹿半島のほとんどを占め、3 方を日本海に囲まれている。男鹿半島には、寒風山と本山の 2 つの山があり、滝川を初めいくつかの河川が海に向かって流れる。市西部には、戸賀湾があり、戸賀港や市役所の戸賀出張所が置かれる。また、北西端には入道埼がある。大仙市は、秋田県南の内陸部に位置しており、平成17年3月22日に大曲市、神岡町、西仙北町、中仙町、協和町、南外村、仙北町、太田町の1市6町1村が合併して誕生し、東は仙北市や岩手県と、南は横手市・美郷町と、西は由利本荘市と、北は秋田市とそれぞれ接している。

平成28年度より、将来の都市像を活力ある地場産業の構築と思いやりの心で創りあげる「教育・観光・環境が豊かな文化都市」を目指した男鹿市総合計画のもとまちづくりに取り組んでいる。

〈調査事項概要〉

1子育て支援について

説明者：男鹿市市民福祉部健康子育て課　主幹　清水　有香氏

1事業実施に至る背景

おがっこネウボラについて

市内に出産ができる医療機関がないため、妊婦健診から出産まで対応ができる市外産婦人科医療機関を利用する方がほとんどである。

子育てに関するメンタルケア及び産前・産後ケアについて、ニーズが高まっている。

（出産や母乳に関する専門的な相談ができる医療機関等が身近にないこと、子育て世帯に核家族が進んでいること、自衛隊の駐屯地があること等転入者数が少なくないことも一因か）

※高齢化　全市 41.3%が進む一方で秋田市方面に近い一部の地区に子育て世帯が多い。

人口29，435人（前年度比600人減）出生数106人（合計特殊出産率1，12）平成23度以降年々減少していたが、平成 27 年度は前年度比3人増。

以上から、平成 27 年 4 月から助産師、臨床心理士を配置したおがっこネウボラを開設。（男鹿版ネウボラ。ネウボラはフインランド語で[アドバイスの場所]。）

市内で、出産できなくても、市内において母子保健コーディネーターを中心に、妊娠から子育て期までの切れ目にない支援により、安心して子どもを産み育てられる実感が得られる環境を目指す。

（1）事業内容・拡充事業について

拡充事業	事業内容
妊娠・出産・育児包括支援事業	妊産婦等の支援ニーズに応じ、必要な支援に繋ぐ調整役として母子保健コーディネーターを設置。産前・産後ケア事業として、ママサポート119、産前・産後教室、乳児全戸訪問を実施。
満5歳児健康相談	集団行動や人との関わりが苦手な子を早期に発見することで、専門機関が情報を共有し、就学に向けた支援に繋げる。また、保護者が就学を見通した「生活習慣づくり」の大切さについて考える場とし、就学期を迎えるための準備を始める契機とする。
幼児フッ化物塗布事業（2歳児、3歳児）	むし歯予防と保護者の意識啓発を目的とし、歯科医院でフッ素物塗布を行う。
幼児期のフッ素洗口事業（保育園、幼稚園）	むし歯を予防するため、園児に対し集団的・継続的なフッ素洗口を行う。
産婦産後1ヵ月検診	授乳不安や育児不安の解消、心のケアを必要とする母親の育児支援を行う。医療機関で実施。
子育てハンドブック作成事業	子育てに関する役に立つ情報をまとめたハンドブックを作成し、子育て支援を図る。 ※web 開設、メール配信

（2）、支援体制及び成果

◆母子保健コーディネーターとして助産師（専任）1名、地区担当保健師8名、臨床心士１名が、チームで支援対応を行うため、改めて医療機関や専門機関を受診しなくても「おがっこネウボラ」において解決できる事例が増えた。

◆専門職による継続した支援により、利用者の安心感が得られている。

◆妊娠届出時から保健師、助産師が個別面談により妊娠に伴う家族を含めた状況を把握し、切れ目のない支援に繋げる。「ママサポート119」、妊婦健康診査、乳児・妊産婦訪問、産前・産後教室、乳幼児健診等へ。

◆助産師が配置されたことにより、産前から産後早期(2ヵ月)に授乳指導等がより専門的対応ができるようになった。

◆臨床心理士が配置されたことにより、育児に関するメンタルケアについて、円滑な対応ができるようになった。

（3）支援事例

助産師対応：産後に乳房の硬結、痛みにより授乳困難となった母親。助産師による乳房ケア

及び授乳指導を受け、症状が軽快した。今後も乳児健診等で継続して関わっていくことについて、「対処の仕方が具体的でとても助かった。また、相談できるので安心」とのことだった。

臨床心理士対応：育児不安及び疲労感の大きい母親。保健師及び臨床心理士によるカウンセリングにより、母親が自身の思いに気づき対処しようという意欲の表出がみられた。継続したカウンセリングを希望し、次週に再度来所相談の予定となった。

（3）「おがっこネウボラ」利用状況（平成28．7．13作成）

相談内容	電話相談（単位：月）			窓口対応（単位：月）			計
	H27	H28/4～6	小計	H27	H28/4～6	小計	
妊娠・出産、予防接種、発達等子育て関係	368	93	461	243	47	290	751
保育園入園、保育料、児童手当関係	1,474	116	1,590	1,063	943	2,006	3,596
計	1,842	209	2,051	1,306	990	2,296	4,347
母子訪問件数	平成27年度　対象者108 訪問79（来所7　電話10 里帰り12）			平成28年4～6月 対象者34、　訪問30（来所 2　里帰り2）			

2ママ・サポート119（妊婦事前登録制度）について

平成27年4月から妊婦さんの希望により、出産予定日や母体の状況等を事前に登録していただくことで、緊急に搬送が必要な際に、連絡の短縮など迅速な対応を実現し、出産を控えた妊婦の不安解消につなげることが目的である。

（1）対象者は、男鹿市に住所を有し、母子手帳の交付申請を受ける妊婦で登録を希望する方、また母子手帳が交付済みの妊婦で、登録を希望する方。

（2）登録を希望する場合、「妊婦事前登録者情報届出書」に記入し、健康子育て課へ郵送また窓口に直接提出する。また、記載された情報は、一部を消防で登録管理し、一部を本人が管理、一部を健康子育て課が保管する。登録情報は、妊婦さんの緊急時の救急搬送に活用されます。

3質疑応答

Q：保健師が若い方のようだが

A：県内でも一番ではないか

Q：ネウボラという言葉を使うことについて

A：市長が「ネウボラ」を使うべきとのことであった

Q：子育て支援センターとの違いは
A：何を充実させるべきか、考えるきっかけとなった

Q：新たに2名を採用したとのことだが、正規職員か
A：正規職員として採用した

Q：幼児フッカ塗布事業は無料なのか
A：無料券を3回分交付している

＜考察＞

「おがっこネウボラ」は保険センター内にあり、母子保健コーディネーターを中心に、保健師、助産師、臨床心理士などがひとつになった支援チームで、妊婦・出産・子育てから就学時まで、子育て世代が直面する困ったことや、心配なことに耳を傾け、相談に乗り、支えていく場所である。

窓口が一つであることは、利用者側からすれば非常に便利である。ネウボラの利用については、妊娠届出時からネウボラの周知をしており、乳児・妊産婦訪問、乳幼児健診来所者（1ヵ月あたり60～80人）の他、個別相談（電話や来所等）希望者に対応している。

母親の心配・不安事（赤ちゃんの母乳の飲みが悪い。赤ちゃんが何をしても泣き止まない。育児がうまくいかなくて、なんだかイライラする。妊娠中の食事や体重管理について知りたい等々）子育て世代の地区担当保健師8名が常勤しており支援を行っている。

赤ちゃんの定期健診は、同じスタッフが通して観ているので、気になることがあれば即アドバイスができる。（発達障害など）、出産・子育て等に関するワンストップ相談窓口であり、まさに妊娠期から切れ目のない支援となっているため安心して子育てができる。

本市でもネウボラの早期導入を考えたい。

秋田県能代市

1　視察実施日　　平成28年7月27日　　午後1時00分～2時30分

2　視察場所　　能代市役所二ツ井町庁舎

3　視察内容

〈自治体概要〉

人口　　55，574人（平成28年6月末現在）

面積　　426．95Km^2

能代市は、秋田県北西部に位置し、東は北秋田市・上小阿仁村、西は日本海、南は三種町、北は八峰町・藤里町に接している。

東北地方を縦断する奥羽山脈に源を発する1級河川米代川が市域の中央を東西に流れ日本海に注ぐ。下流部には能代平野が広がり、その両側は、広大な台地が広がり大部分が農地として活用されている。また東南部は、房住山を主体になだらかな丘陵地となっており、西部は、日本海に沿って南北に砂丘が連なり、湖沼が点在している。

平成20年3月には能代市総合計画が策定され、能代市民の“和(わ)”、環境で活力を生み出す“環(わ)”、未来へつながる“輪(わ)”による、「“わ”のまち能代」を新市の将来像に掲げ、対話を大切にし、ともに汗して、新しい能代を築くため、各種政策・施策を展開している。

〈調査事項概要〉

1市民意識調査について

説明者：能代市企画部地域情報課　　課長　工藤　力氏

広報広聴係　係長　藤田　浩明氏

1調査実施に至る背景・経過について

（平成17年以前）

旧能代市において毎年、市民から市政に関する意見を伺い、市政の推進と改善に役立てることを目的に行っていた。旧二ツ井町では実施していない。

◇調査対象：満18歳以上の男女 1，000 人（年代別無作為抽出）

（平成18年から）※合併初年度

新市においても、市民から市政に関する意見や要望について伺い、市政の推進と改善に役立てることを目的に毎年行うこととした。

調査項目等についいては、旧能代市で実施していた調査を継続することとした。

◇調査対象：満18歳以上の男女 1，200人（年代別無作為抽出）

（平成24年から）
より多くの市民から意見を伺うため、調査対象人数2，0:00 人に変更した。

市民意識調査回答 回答率

年度	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27
回答者数	512	529	549	533	500	554	869	902	931	869
回収率	42.7	44.1	45.8	44.4	41.7	46.2	43.5	45.1	46.6	43.5

2調査に係る経費について

消耗品費	2万円	コピー用紙等 6箱
印刷製本費	7万1千円	封筒（送付用、返信用）4，000枚
委託料	7万1千円	調査票回答パンチ入力
役務費	40万8千円	発送 124円×1，700通＋140円×300通 ＝252，800円 返送 （140円＋15円）×1，000通 ＝155，000円

合計 57万円

3調査項目の選定について
「市民意識調査実施方針」策定後、各課に調査項目の継続・追加を確認し、調査項目数等の調整を図る。（概ね設問数を50未満とする。）

・能代市基本計画（平成19年度策定）において、「目指す目標指数」のひとつとして市民式調査結果数値を目標となっている項目
・各種計画の点検・評価資料となっている項目
・特定の課題に対する市民の意識、意向を調査
・市政全般についての意見、要望などの把握

4調査結果を踏まえた取り組みについて
・調査結果は、前年度との調査数値を比較しながら、広報のしろに掲載し、市民との情報共有を図っている
・総合計画の目標指標については、「まちづくり点検表」として庁内で分析し改善等の検討を行っている

5今後の課題について

・回答率は40%を超えているが、より多くの方に回答をいただき市の施策事業の検証に役立てるため、回答しやすい工夫等を検討する

・性別・年代別・地区別など、クロス集計などのデータ活用を検討する

6質疑応答

Q:市民意識調査はいつから行っているのか

A:平成6年の総合計画の策定時から行っている

Q:広報のしろについての質問があるが、毎年聞いているのか

A:3年に1度である

Q:アンケートをお願いする方に、前もって連絡するのか

A:広報のしろにて市民に広く周知し、アンケートを依頼する方には特にしていない

Q:多くの方が自由記載の欄に意見書いているのか

A:いろいろと意見を記載していただいている

Q:市民意識調査のほかに市民の意見を聞く方法はどのように行っているのか

A:毎年5月の広報のしろに切り取って封筒になる「市長への手紙」を掲載

Eメールによる意見受付

市長が市内13地区をまわるタウンミーティングを行っている

〈考察〉

能代市では平成6年から毎年市民意識調査を行っており、その意見をもとに市の総合計画など各種施策に反映している。本市では、各種計画を策定する際に対象となる市民の意見を聞くアンケート調査は行われているが、能代市のような継続した調査は行われていない。継続調査項目である、身近な暮らしについて、健康状態について、市政について、市職員について、など市民の意識やニーズを把握するために継続して調査することは大変に意義がある取り組みである。

また市民意識調査のほかに市民の意見を聞くために、「市長への手紙」や市内全域でタウンミーティングを行っていることも参考になった。

本市でも様々な方法、ツールを使い広く市民の意見を聞くべきであると感じた。

青森県黒石市

1　視察実施日　　平成28年7月28日　　午前10時00分～11時30分

2　視察場所　　黒石市役所

3　視察内容

〈自治体概要〉

人口　　34，732人（平成28年6月末現在）

面積　　217．05Km^2

黒石市は、青森県のほぼ中央に位置し、三方に津軽平野、東に八甲田連峰が連なる豊かな自然と豊富な温泉に恵まれ、味の良い「黒石米」と「黒石りんご」の産地として知られる古くからの城下町である。

また、十和田湖の西玄関口にあたり、東北自動車道黒石ICを擁し、青森空港や東北新幹線新青森駅まで約30分と観光地へのアクセスにも優れ、四季の彩豊かな魅力ある「田園観光産業都市」を目指してまちづくりを進めている。

〈調査事項概要〉

1健康都市宣言について

説明者：黒石市健康福祉部健康推進課　課長　　高谷　倉英氏

保健師　須藤　留美子氏

主幹　　村上　直子氏

1宣言に至る背景・経過について

・2010年の都道府県の平均寿命調査によると、ワーストは青森県で男女とも全国最低。青森県の男性は1975年から8回連続、女性は2000年から3回連続の最下位。

・県においても、短命県返上のための各種施策を実施。

・青森県は依然として男女ともがん死亡がワースト1位となり、男性は心疾患、肺炎、腎不全、糖尿病もワースト1位（2012年調べ）

※平成25年9月「健康づくり宣言」をし、県内市町村の取り組みを後押し。

・一方黒石市は、男性が全国で下から9位、女性が111位（全国1898市町村）。
男性はワースト50位以内に県内40市町村のうち、黒石市を含め24市町村が入り、女性は11市町村が入るなど、黒石市のみならず各自治体が危機感抱き、健康施策を強化。

・平成26年7月に誕生した新市長の公約の中には、市民の健康長寿も盛り込んでおり、その内容は、市民の意識高揚を目的とした保健協力員の組織化、一市民一スポーツ、義務教

育での健康知識習得をとある。

・青森県内では、平成26末時点では、青森市、弘前市、八戸市など、既に16市町村が「健康づくり宣言」済み。今後、黒石市を含め三沢市や五所川原など16市町村が宣言するとしており、青森県内40市町村中8割が健康づくりの明確な意思表示をすることとなった。

2具体的な取り組みについて

（1）保健づくりに関する組織等の活動

以前よりあった食生活改善推進員会・健康づくり推進協議会に新たに、保健協力員会を平成27年5月22日設立、各町内会から推薦され、会員数は224人。健診未受診者への勧奨活動・健診調査票の配布収・健康づくり市民の集いへの参加協力・健康マイレージ事業のチラシ配布等

（2）平成28年度健康事業

・成人健康診査・がん検診（全戸配布の健康こよみ）
・健康づくり応援教室（音楽に合わせてエクササイズ、3B 体操、ヨガ）
・健康相談の開設（毎月第一・三月曜日市役所健康推進課）
・重点地区活動（平成24年から開始、保健師が地区を限定して、健診後の保健指導、健康相談、重症化予防の訪問実施）
・こころの健康づくり（傾聴ボランティア・ゲートキーパ養成講座及びフォローアップ講座毎月一回専門相談員により健康相談開設）
・健康教室（各公民館で開催）
・食育事業（小学校4，5年を対象として食が将来への健康につながる学習指導）
・健康づくり市民の集い（毎年11月黒石りんごまつりと併催し、健康啓発活動）
・健康マイレージ事業（※）
・健康づくり出前講座

（※）健康マイレージ事業

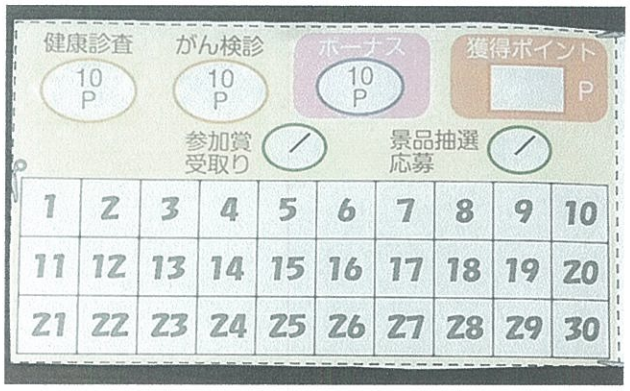
健康診査や各種がん検診の受診、市の健康づくり事業への参加などでポイントをためる。「くろいし健康マイレージポイントカード」
ポイントの付与期間平成28年5月1日～平成29年1月31日
（例）健康診査10ポイント、がん検診10ポイント、出前講座参加5ポイント、健康づくり応援教室1ポイント

10ポイント貯まった➡健康都市宣言協賛店でサービスを受けることができる。
（例）食事をした方に煮卵1個プレゼント、店内商品10%割引
参加賞がもらえる。

40ポイント貯まった➡景品抽選に応募できる。
平成27年度は自転車、米晴天の霹靂2キロ、レイコップ等

＜表紙＞

〈裏面〉



3質疑応答

Q:県の財政支援はあるのか

A:動機づけのみ

Q:重点地区として西部地区を選んだ理由は

A:医療費が高い地区であった

Q:健康マイレージの平成27年度の実績は

A:10ポイントを達成した方が2，000人を超えた

Q:黒石市保健協力員会とは

A:町内会から推薦していただき、任期は2年である

Q:一市民ースポーツへの取り組みについて

A:まだ具体的なことはしていない

＜考察＞

黒石市は、生活習慣病に起因する疾病の割合が国や県より高く、平均寿命や健康で生活できる期間も他の市町村と比べると短い傾向にあった。そこで、みんなが健康で、元気な市を目指し平成27年2月21日健康都市宣言を行った。

組織目標を、

◎健診を受けよう！

◎腹八分目で肥満を予防しよう！

◎運動やスポーツを週一回以上しよう！

等3点にわたって決め、これまで述べたように具体的な取り組みを続けて1年。機会あるごとに啓発活動を行い真剣に且つ、マイレージ事業などを取り入れ楽しく取り組んでいる。

市民の皆さんの生活習慣（塩分過剰摂取・喫煙・多量飲酒）また、健康の意識（健診受診率の低さ・病院受診の遅さ・通院状況の悪さ）変えることは，大変のようであるが、お一人お一人が知識と意識を上げることで成功体験をつかみ、自信につながることで、市全体が盛り上がって行くと考えられる。少子高齢化の時代に大変に参考になった。

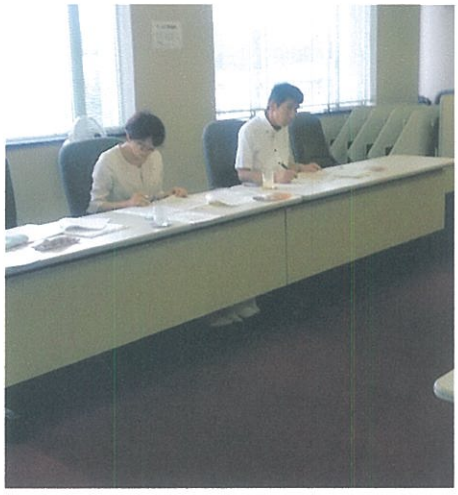
本市でも、今後検討していきたい。

公明名取会派行政視察　　平成28年7月26日（火）～28日（木）

秋田県男鹿市

秋田県能代市

青森県黒石市



男鹿市議会事務局

副事務局長
兼庶務班長
兼議事調査班長

畠山隆之

〒010-0595
秋田県男鹿市船川港船川字泉台66-1
TEL(0185)24-9150 FAX(0185)23-2130
E-mail : t_hatakeyama@city.oga.akita.jp

OGA
ゴジラ岩

能代市

能代市議会事務局

米村洋志

〒018-3192 秋田県能代市二ツ井町字上台1番1号
TEL 0185-73-5052 FAX 0185-73-3333
URL http://www.city.noshiro.akita.jp
E-mail hiroshi-yonemura@city.noshiro.akita.jp

能代市

企画部地域情報課広報広聴係

係長 **藤田浩明**

〒016-8501 秋田県能代市上町 1-3
TEL 0185-89-2147 FAX 0185-89-1770
E-mail:hiroaki-fujita@city.noshiro.akita.jp
URL http://www.city.noshiro.akita.jp

NOSHIRO バスケットボールタウン BASKETBALL TOWN

能代市

企画部地域情報課

課長 **工藤力**

〒016-8501 秋田県能代市上町1番3号
TEL:0185-89-2145 FAX:0185-89-1770
E-mail:tsutomu@city.noshiro.akita.jp

能代市議会議員

副議長 **畠山一男**

〒〇一六―〇一五二
能代市母体字湯の沢六番地
☎（〇一八五）五八―三六三四

黒石市議会事務局

議事係主事
櫛引亮兵
Ryōhei Kushibiki

〒036-0396　青森県黒石市大字市ノ町 11-1
TEL：0172-52-2111(内線 347)　FAX：0172-53-7410(直通)
e-mail:r-kushibiki@city.kuroishi.aomori.jp

黒石市議会

副議長
工藤俊広

議会事務局　青森県黒石市市ノ町一一一
電話〇一七二―五二―二一一一番
FAX〇一七二―五三―七四一〇番
自宅　青森県黒石市岩木町八八
電話・FAX〇一七二―五二―七五二五番

黒石市健康福祉部健康推進課

課長　髙谷倉英（たかやそうえい）

〒036-0396
青森県黒石市大字市ノ町 11 番地 1
TEL：0172-52-2111 内線 243
FAX：0172-52-6191（市役所代表）
E-mail：s-takaya@city.kuroishi.aomori.jp

黒石市議会事務局

事務局長
長谷川直伸

〒036-0396　青森県黒石市大字市ノ町十一―一
電話（〇一七二）五二―二一一一（代）
電話（〇一七二）五二―二一二九（直）
FAX（〇一七二）五三―七四一〇（直）

黒石市役所
健康推進課

保健師　須藤留美子

〒036-0396 青森県黒石市大字市ノ町11の1
Telephone (0172) 52-2111(代)　Facsimile (0172) 52-6191

健康に**関心**　身体に**検診**　心に**安心**　元気な**黒石**
URL http://www.city.kuroishi.aomori.jp

黒石市 健康福祉部 健康推進課
主幹　村上直子
兼主幹保健師

〒036-0396　黒石市大字市ノ町 11 番地 1
TEL　0172(52)2111(代)（内線 246）
FAX　0172(52)6191
e-mail　na-murakami@city.kuroishi.aomori.jp